

2027年3月期 第1四半期

決算説明会資料

2026年8月6日

MORE Sustainable, KEEP Innovating for a KINDHEARTED Society



決算のポイント – 2027年3月期第1四半期決算発表

今回の決算説明会において、
ご注目いただきたいポイントは以下の3点

1

受注・売上・営業利益
共に前年実績を超過、
受注予想を上方修正

- エンジニアリング事業のAI・半導体関連向け海外ケミカルプラント・水素製造装置および単体機械事業の中国向け油清浄機が牽引し受注が増加、受注高予想を上方修正
- 売上の増加は豊富な受注残高からGX事業が牽引

2

成長分野のGX事業は
着実に進捗

- 売上高の増加に伴い営業利益は大幅に増加、1Qより黒字化を達成
- 受注については、下期中心の計画のため、前年同期比で微減も計画通り推移

3

研究開発、M&Aなど
成長投資の実行

- 川崎製作所内においてメタネーション装置の実証試験を開始
- 陸上用途の遠心分離機に強みを持つ、斎藤遠心機工業株式会社と資本業務提携

目次

I. 2027年3月期第1四半期 決算補足説明	P. 4
II. マクロ環境・トピックス	P.12
Appendix. 1 業績推移	P.18
Appendix. 2 会社概要	P.22
Appendix. 3 2050経営ビジョン・中期経営計画	P.25
Appendix. 4 当社の強み・ビジネスモデル	P.39

I. 2027年3月期第1四半期 決算補足説明

MORE Sustainable, KEEP Innovating for a KINDHEARTED Society

MKK

サマリー

■ 財務サマリー(2027年3月期 第1四半期決算実績、通期業績予想)

第1四半期 実績	受注高	16,171 百万円 (前年同期比 +56%)	(前年比+) エンジニアリング事業でのAI・半導体関連向け海外ケミカルプラント・水素製造装置の受注や、単体機械事業での船舶向け機器・部品の好調な受注が寄与し、前年同期比で大幅に増加
	売上高	18,805 百万円 (前年同期比 +19%)	(前年比+) GX事業を中心に大型工事案件が進捗し増加
	営業利益	2,022 百万円 (前年同期比 +40%)	(前年比+) 売上高の増加による売上総利益の増加が寄与し前年同期比で大幅に増加
2026年6月8日決算説明会で発表の通期予想を一部修正(受注高の上方修正、営業利益の計上時期等)			
通期予想	受注高	82,000 百万円 (前期比 +15%) 中期経営計画: 80,000 百万円 (前期比: +10,667 百万円)	(前期比+) AI・半導体関連向けケミカルプラントや水素製造装置などエンジニアリング事業の受注増により前期比増加、単体機械事業の好調を背景に期初予想から10億円の増加を見込む
	売上高	80,000 百万円 (前期比 ▲5%) 中期経営計画: 77,000 百万円 (前期比: ▲4,240 百万円)	(前期比-) 複数の大型案件が上期に完工するため前期比で減少するが、中計以上の水準を見込む
	営業利益	8,800 百万円 (前期比 ▲4%) 中期経営計画: 7,500 百万円 (前期比: ▲381 百万円)	(前期比-) 売上高の減少に伴い売上総利益は減少するが、営業利益率は改善を見込む
	年間配当	120 円/株 (前期比 +5 円) 中期経営計画: 90 円/株	(前期比+) 配当性向: 40% (前期比: +5 ポイント)

連結損益計算書

(単位:百万円)

	2026年3月期Q1 (2025年度Q1)		2027年3月期Q1 (2026年度Q1)			
	実績	売上比	実績	売上比	前年同 期 比	
					増減額	増減率
売上高	15,813	—	18,805	—	+ 2,991	+ 18.9%
売上原価	12,401	78.4%	14,600	77.6%	+ 2,199	+ 17.7%
販売費及び一般管理費	1,970	12.5%	2,181	11.6%	+ 210	+ 10.7%
営業利益	1,441	9.1%	2,022	10.8%	+ 580	+ 40.3%
経常利益	1,754	11.1%	2,090	11.1%	+ 336	+ 19.2%
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,166	7.4%	1,942	10.3%	+ 775	+ 66.5%
1株当たり四半期純利益(単位:円)	51.20	—	85.25	—	+34.05	+ 66.5%

販売管理費

- 金額ベースでは 10.7%増：新製品創出に向けた研究開発が進捗し増加、
引き合い案件の増加により見積設計費が増加
- 売上高比率では 0.9ポイント低下：売上高販管費率は 12.5% から 11.6% に低下

(単位:百万円)

	2026年3月期Q1 (2025年度Q1)		2027年3月期Q1 (2026年度Q1)			
	実績	売上比	実績	売上比	前年同期比	
					増減額	増減率
給与・賞与	719	4.5%	746	4.0%	+26	+3.7%
見積設計費	187	1.2%	248	1.3%	+61	+32.6%
研究開発費	108	0.7%	186	1.0%	+77	+71.8%
販売手数料	70	0.4%	69	0.4%	▲1	▲1.5%
減価償却費	59	0.4%	64	0.3%	+4	+8.0%
広告宣伝費	71	0.4%	41	0.2%	▲29	▲40.9%
その他	754	4.8%	824	4.4%	+70	+9.3%
合計	1,970	12.5%	2,181	11.6%	+210	+10.7%

連結業績予想

- 売上高は 5.0%減： 複数の大型案件が上期に完工するため前期比で減少するが、エンジニアリング・GX事業の高水準な受注残高、船舶向け機器・部品の好調な販売が寄与し高水準を維持、中計以上の水準を見込む
- 営業利益は 4.2%減： 売上高の減少による売上総利益の減少が影響、一方、営業利益率は改善を見込む
- 当期純利益は 9.2%減： 経常利益の減少により当期純利益も減少

(単位:百万円)

※2026年7月予想

業績予想修正: あり(上期予想)	2026年3月期 (2025年度)		2027年3月期 (2026年度)					
	実績	売上比	上期予想	売上比	通期予想	売上比	前期比	
							増減額	増減率
売上高	84,240	—	43,000	—	80,000	—	▲4,240	▲5.0%
売上原価	65,976	78.3%	34,300	79.8%	62,000	77.5%	▲3,976	▲6.0%
販売費及び一般管理費	9,082	10.8%	4,500	10.5%	9,200	11.5%	+117	+1.3%
営業利益	9,181	10.9%	修正 4,200	9.8%	8,800	11.0%	▲381	▲4.2%
経常利益	9,462	11.2%	修正 4,300	10.0%	8,900	11.1%	▲562	▲5.9%
親会社株主に帰属する当期(中間)純利益	7,546	9.0%	修正 3,690	8.6%	6,850	8.6%	▲696	▲9.2%
1株当たり当期(中間)純利益(単位:円)	331.34	—	修正 161.98	—	300.69	—	▲30.65	▲9.3%

* 2027年3月期上期予想(営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する中間純利益、1株当たり中間純利益)を、期初予想から上方修正いたしました。(2026年7月31日修正)
 なお、通期業績予想の修正はありません。

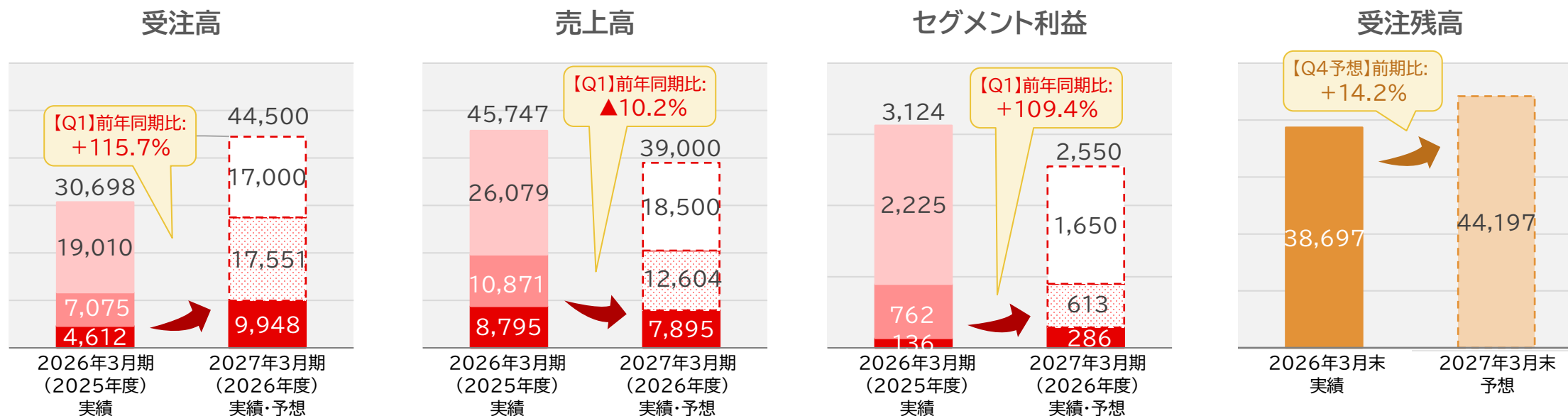
セグメント別の状況 1) エンジニアリング事業

決算のポイント

受注高	> (Q1) AI・半導体関連向け海外ケミカルプラント・水素製造装置などの受注により、前年同期比で大幅に増加 > (通期) 需要が旺盛なAI・半導体関連向けケミカルプラントや水素製造装置などの受注により、前期比で大幅な増加を見込む
売上高	> (Q1) 前年同期比で減少したが、ほぼ計画通り進捗 > (通期) 複数の大型案件が上期に完工するため前期比で減少するものの、高水準を維持の見込み
セグメント利益	> (Q1) 売上高が減少したが、個別案件要因による原価率の改善、販管費の減少により増益 > (通期) 売上高の減少に伴う売上総利益の減少により、減益の見込み

セグメント別業績推移 (単位:百万円)

■:Q1実績 ■:Q2実績 ■:通期実績 ■:Q2予想 ■:通期予想



セグメント別の状況 2) 単体機械事業

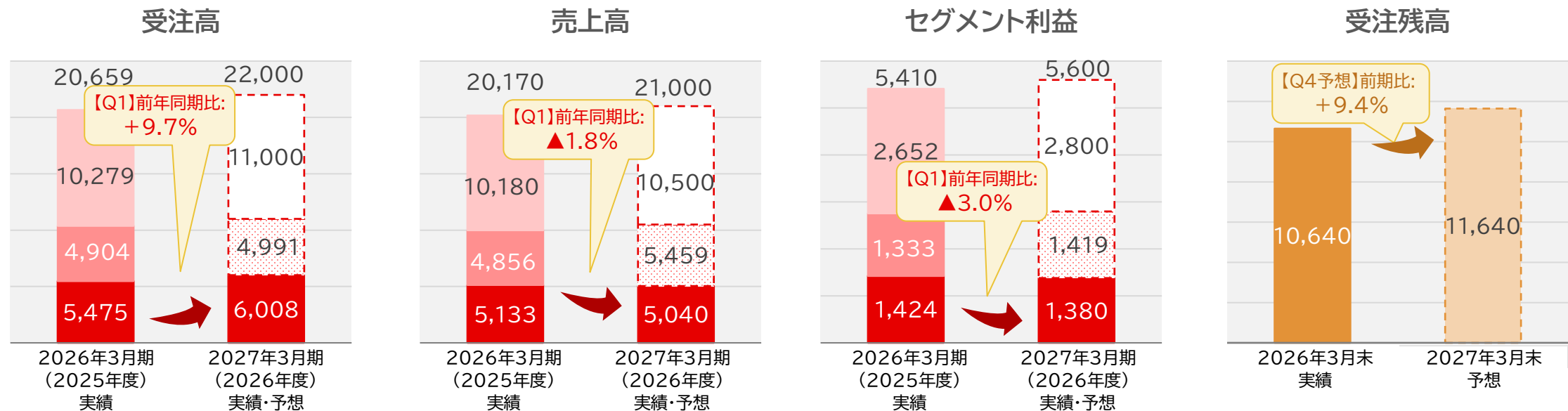
決算のポイント

受注高	> (Q1) 好調な造船・海運市況に支えられ、国内の船舶向け機器・部品※の受注が高水準、さらに中国向け油清浄機の受注が増加 > (通期) 前期に引き続き、好調な造船・海運市況に支えられ高水準を維持の見込み、期初予想の210億円から220億円に上方修正
売上高	> (Q1) 前年同期比で微減も、引き続き高水準を維持 > (通期) 船舶向け機器・部品※の受注が寄与し、高水準で推移の見込み
セグメント利益	> (Q1) 前年同期比で微減も、引き続き高水準を維持 > (通期) 売上高の増加に伴う売上総利益の増加により微増

※油清浄機の本体およびアフターサービス部品、船舶環境規制対応機器

セグメント別業績推移 (単位:百万円)

■:Q1実績 ■:Q2実績 ■:通期実績 ■:Q2予想 ■:通期予想



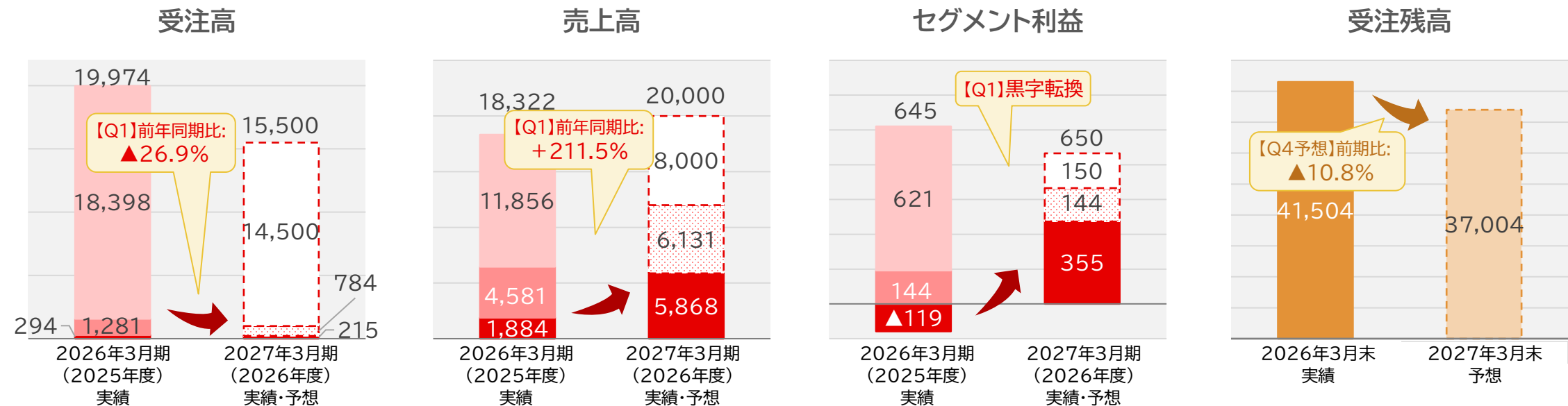
セグメント別の状況 3) GX事業

決算のポイント

受注高	> (Q1) 前年同期比で減少したが、概ね計画通り推移 > (通期) 前期比で減少するものの、水素利活用やバイオガス案件等で高水準を維持する見込み
売上高	> (Q1) 大型工事案件が進捗し、前年同期比で増加 > (通期) 前期までの豊富な受注残高が寄与し、増加を見込む
セグメント利益	> (Q1) 売上高増加に伴う売上総利益の増加により黒字化 > (通期) 積極的な研究開発投資により増加は限定的となるものの、計画通り利益を確保

セグメント別業績推移 (単位:百万円)

■:Q1実績 ■:Q2実績 ■:通期実績 ■:Q2予想 ■:通期予想



Ⅱ. マクロ環境・トピックス

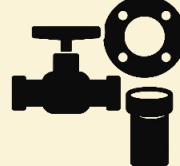
MORE Sustainable, KEEP Innovating for a KINDHEARTED Society

MKK

中東情勢の業績見通しへの影響

※2026/3決算説明会資料からのアップデート箇所を青色で表示しております。

- 原油・ナフサ不足などを原因に一部の資材価格が高騰し、入手環境が悪化していたが、現在は回復基調
- 現時点での影響は限定的であり、業績予想への影響は顕在化していないが、動向を引き続き注視

当社における製造・建設工程への影響		受注への影響
資材調達	原油・ナフサ由来の資材の出荷数量、納期、価格等に影響  ゴム製品  シンナー・塗料  潤滑油  塩ビ・ポリエチレン製品 回復基調	中東情勢の影響に起因する顧客の設備投資計画の延期・見送りは現状無し
現状	● 調達先の分散化、在庫管理の徹底、代替材料検討などにより、資材の供給不足として現在は特段の影響は出ていない ● コストに占める割合がわずかな資材のため、価格変動による業績への影響は、現在は顕在化していない 変化なし 変化なし 変化なし 業績への影響を継続的に注視	変化なし
長期化・悪化した場合	製造機器の部品・塗料等の不足やエネルギー価格高騰に伴う生産計画の遅れ、プラント建設における工期の長期化、建設コストの増加 など → 今後のリスク顕在化への対応を検討中	ケミカルプラント等、原油由来の化学物質を使用する顧客の設備投資計画の延期・見送りなど

オンサイト水素製造装置(HyGeiaシリーズ)の展開

製鉄業界の脱炭素化 GX



水素製造設備のイメージ
(当社建設)

NEW

技術

製鉄業界において、**CO2排出量削減**のために水素を利用した製鉄プロセスを検討

製鉄プロセスにおけるCO2排出量は日本の産業部門全体の**40%**を占める

実証で使用する**水素**を、当社の水素製造装置で製造

事例

日本製鉄

- 水素還元製鉄の実証用
- 電炉プロセスへの転換の投資

受注・納入実績

- 大型水素製造装置 37,500Nm³/hr 規模×2基
- 中型水素製造装置 「M-HyGeia 1000」×3基

バイオガスからの水素製造 GX



技術

下水汚泥や、鶏糞、食品残渣などの廃棄物を処理する過程から発生する**バイオガス**を回収

当社の水素製造装置により**水素**を製造し、水素ステーションなどで有効活用

事例

- 福岡市水素リーダー都市プロジェクト
下水由来のバイオガスを原料とした水素製造装置/水素ステーションの導入・運用
- トヨタ自動車、豊田通商
タイにおける鶏糞や廃棄食料由来のバイオガスを原料とした水素製造

水素ステーション GX



技術

燃料電池自動車向け水素ステーションの建設

- 2003年からステーション建設を開始
- 小型オンサイト水素製造装置は累計32基に及ぶ納入実績を誇る



小型オンサイト水素製造装置
(HyGeiaシリーズ)

工業・生産設備用途

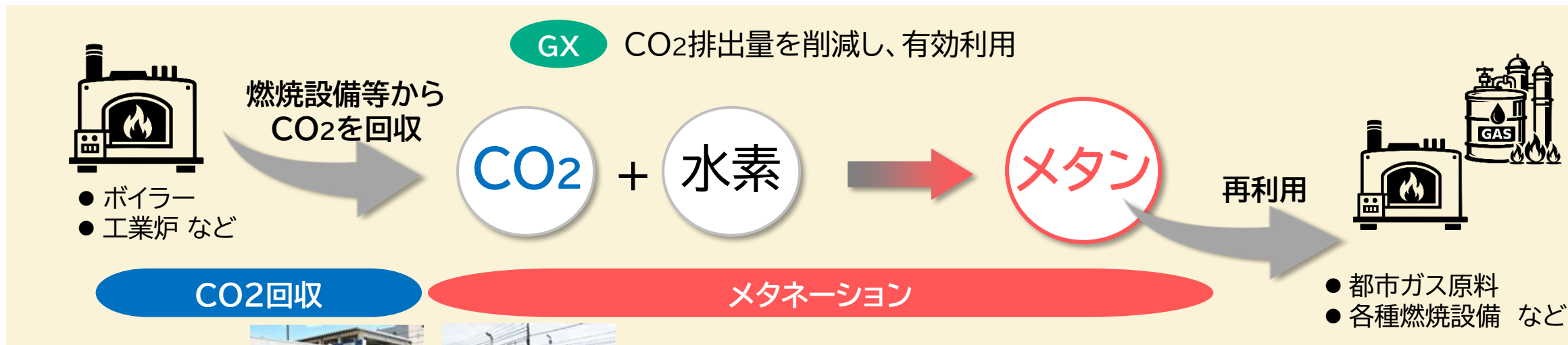
技術

各種産業分野で必要な水素を供給

【主な活用分野】
半導体製造、金属熱処理、光ファイバー、石英ガラス、油脂製造 など

メタネーション装置の実証試験を開始 **NEW**

- 当社の川崎製作所内で、メタネーション装置の実証試験を開始(本年6月プレスリリース)
- メタネーションは、カーボンニュートラル社会実現に向けて、二酸化炭素の有効利用のため注目を集める技術
- 早期実用化し、CO₂回収装置と併せてカーボンリサイクル技術を展開することで、GX事業を推進



当社内の動き



川崎製作所内に設置した実証機
(左:CO₂回収装置、右:メタネーション装置)

2024年7月、川崎製作所内にCO₂回収装置を設置、実証試験を開始→2026年4月に製品化
2026年3月、川崎製作所内にメタネーション装置実証機を設置、実証試験を開始→早期実用化へ



早期実用化し、
CO₂回収装置と併せてカーボンリサイクル技術を展開



- 持続可能な循環型社会推進事業を拡大
- 顧客の脱炭素化を担う企業となることを目指す

油清浄機「三菱セルフジェクター(SJ)」シリーズの用途開発

● 当社のトップシェア製品の一つであるSJシリーズの用途開発を進め、GX事業拡大を促進

SAF製造

GX



技術

廃食油を原料としたSAF(持続可能な航空燃料)を製造するための、**不純物の除去**

事例

国内初となるSAF大規模生産の実証事業向けに納入
(2025年からSAF供給開始)

微細藻類の濃縮

GX



技術

微細藻類を利活用するための処理として、培養液中に漂う
微細藻類を濃縮



CO₂

を吸収して成長



微細藻類



濃縮

油脂など

化石燃料にかわる
新たなバイオ由来資源

- 医薬品
- 化粧品原料
- バイオ燃料 など

新たに可変インペラを搭載することにより、
培養液から微細藻類濃縮液を効率よく回収

事例

2026年、培養液中の微細藻類濃縮用として、
可変インペラを搭載した製品を受注

原料の不純物除去



三菱セルフジェクター
(SJシリーズ)

必要な成分の回収



船舶用 油清浄機

技術

船舶の
燃料油・潤滑油の清浄

トップシェアを確立

- 国内:90%以上
- 世界:50%以上

*シェアは自社調べ

陸上用 遠心分離機

技術

微粒子の分級・濃縮

- 化学/医薬/食品工業
の分野での分離
- 動物油脂の回収
- 金属粉、顔料、樹脂等
の分級・濃縮 など

NEW

斎藤遠心機工業
株式会社と
資本業務提携



詳しくは次ページへ

斎藤遠心機工業との資本業務提携

NEW

- 2026年6月、斎藤遠心機工業株式会社と資本業務提携（発行済株式の52.5%を取得）
- 陸上用の大型遠心分離機を強みとする企業であり、今後のシナジー効果に期待

斎藤遠心機工業 株式会社



飲料用遠心分離機
(ADSシリーズ)

- ✓ 強み 陸上遠心分離機の
多様なラインナップ
- ✓ 強み 食品・飲料業界での実績
- ✓ 強み 大型遠心分離機

△ 課題 資本・リソースの充実

製品ラインアップ
において
相互補完

三菱化工機 株式会社

三菱セルフジェクター
(SJシリーズ)



小型分離板型遠心分離機
LABOCENT™



- ✓ 強み 船舶用油清浄機でトップシェア
- ✓ 強み 化学、医薬分野での実績
- ✓ 強み 中小型遠心分離機

△ 課題 陸上用途での実績

陸上用途拡大に向け、2026年1月より、
小型分離板型遠心分離機LABOCENT™の販売を開始

市場のニーズに対応

大型遠心分離機への拡充により

- 食品業界などの大型機ニーズに対応
- 実証中の用途（藻類・SAF等）において、
商用規模化の対応

経営ビジョンの実現に寄与

特に関連性が高い
テーマ

- 油水分離
(リサイクル)
- 藻類
(新エネルギー)
- SAF
(新エネルギー
・リサイクル)

- 1 循環型社会推進
- 2 クリーンエネルギー
- 3 省力・省エネ
- 4 次世代技術開発

競合他社へ対抗できる基盤整備

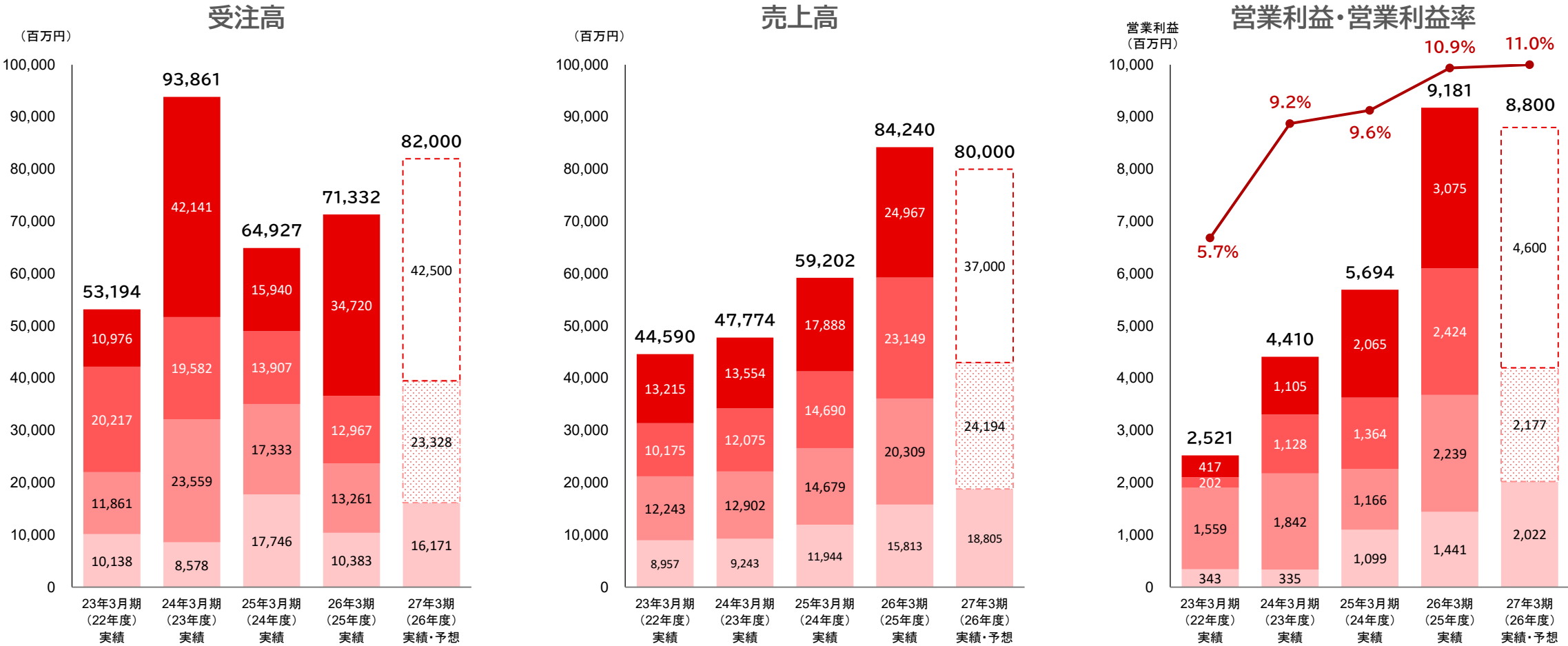
競合メーカーに対抗できるよう、
製品ラインナップの拡充、競争力の強化

Appendix 1. 業績推移

MORE Sustainable, KEEP Innovating for a KINDHEARTED Society

MKK

業績の推移

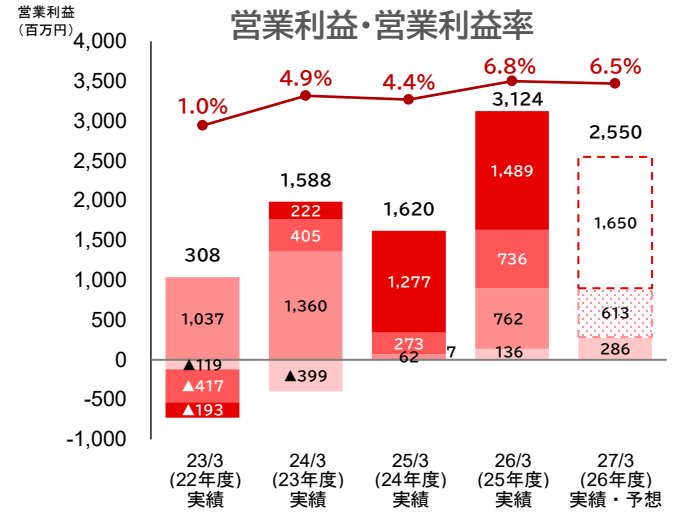
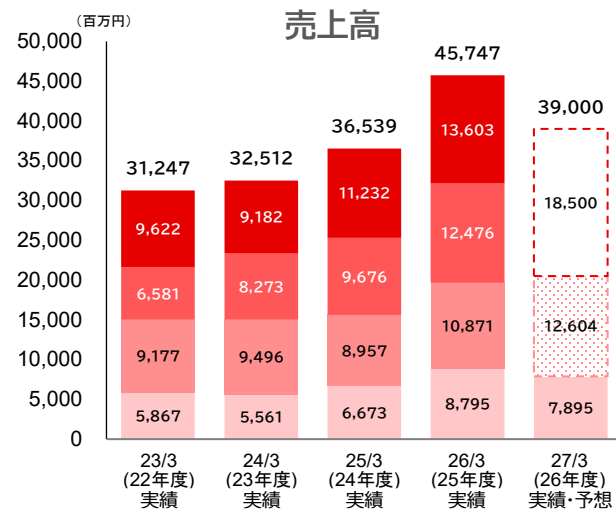
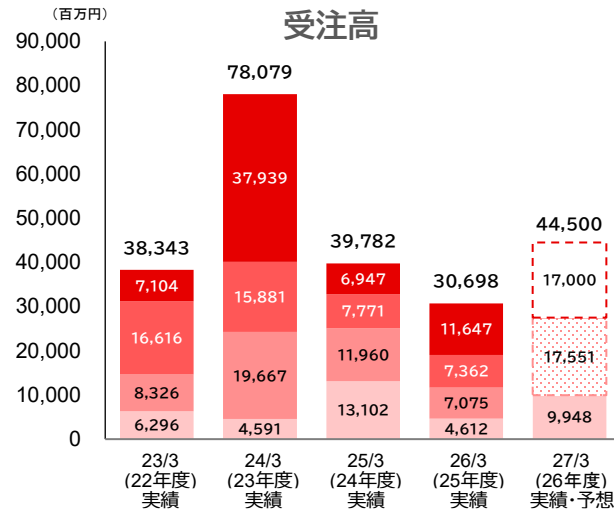


27年3月期上期・下期予想(受注高)を、期初予想からそれぞれ500百万円上方修正(2026年7月31日修正)

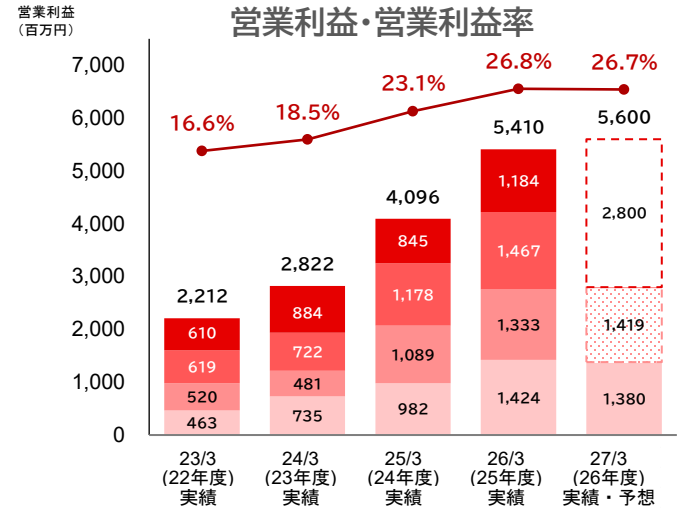
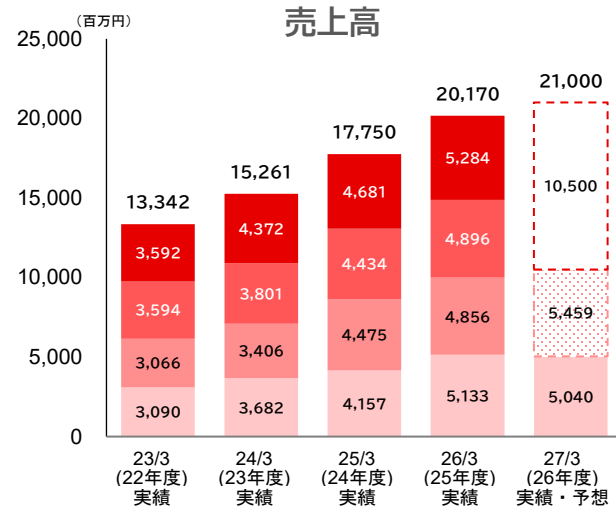
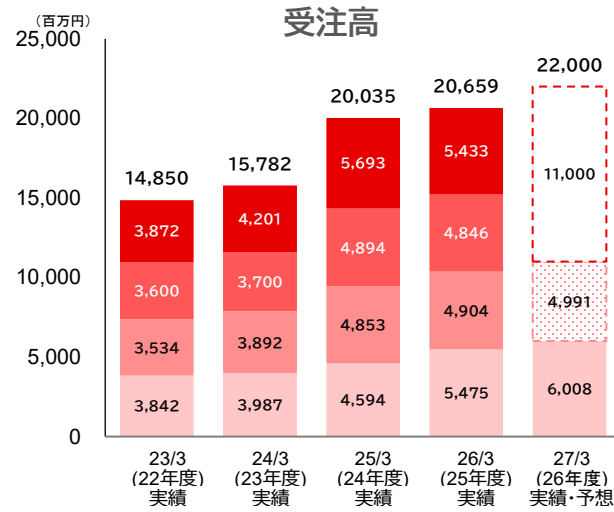
■ Q1実績 ■ Q2実績 ■ Q3実績 ■ Q4実績 ■ Q2予想 ■ Q3+Q4予想 ● 営業利益率/年(実績・予想)

セグメント別業績の推移 1)エンジニアリング事業/単体機械事業

エンジニアリング



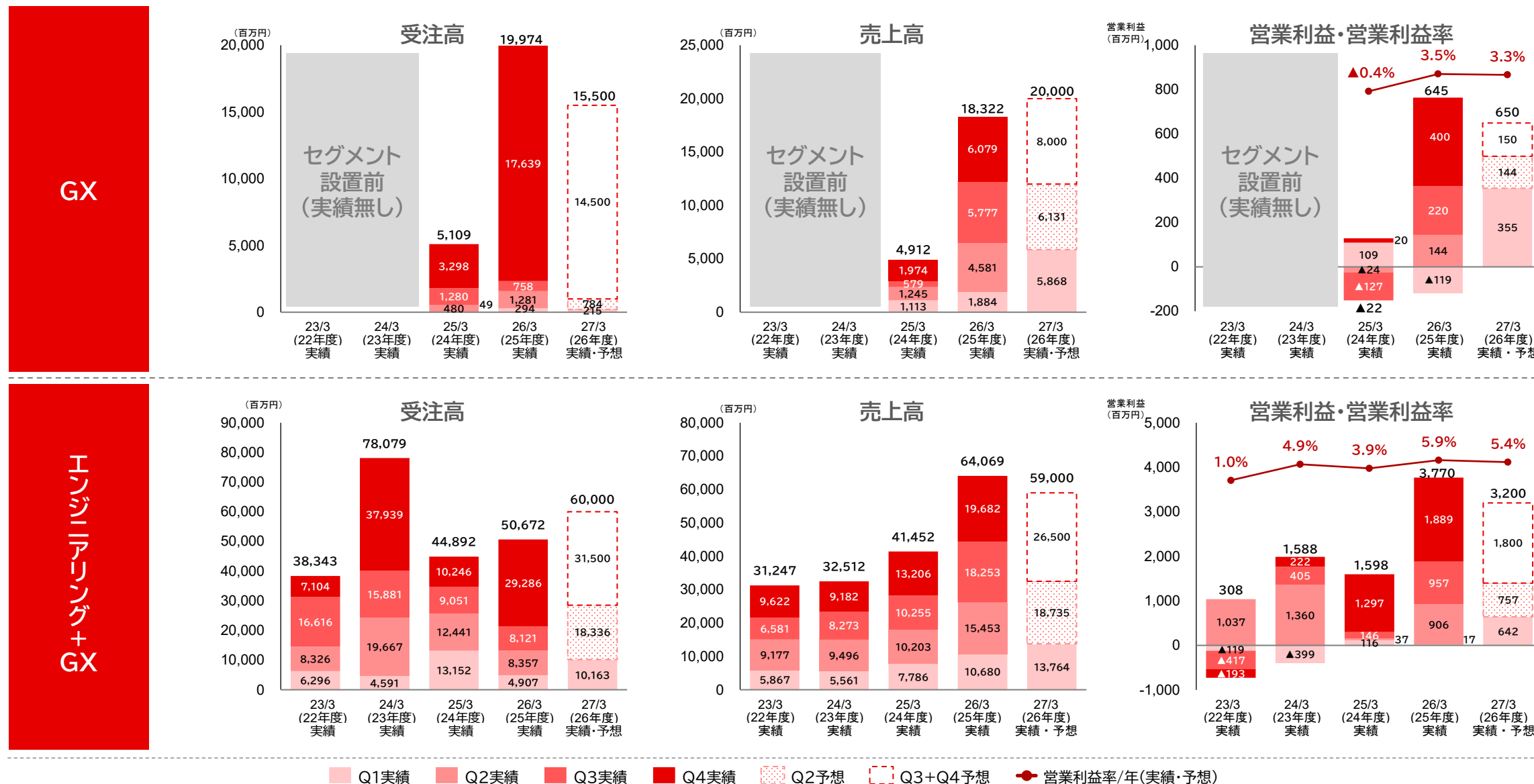
単体機械



27年3月期上期・下期予想(受注高)を、期初予想からそれぞれ500百万円上方修正(2026年7月31日修正)

■ Q1実績 ■ Q2実績 ■ Q3実績 ■ Q4実績 ■ Q2予想 ■ Q3+Q4予想 ● 営業利益率/年(実績・予想)

セグメント別業績の推移 2)GX事業/エンジニアリング+GX事業



Appendix 2. 会社概要

MORE Sustainable, KEEP Innovating for a KINDHEARTED Society

MKK

会社概要（2026年3月31日現在）

商号	三菱化工機株式会社 (Mitsubishi Kakoki Kaisha, Ltd.)
代表取締役	代表取締役 社長執行役員 たなか としかず 田中 利一
本社	本社： 神奈川県川崎市川崎区大川町2番1号
	本社事務所： 神奈川県川崎市幸区堀川町580番地 ソリッドスクエア東館
設立	1949年9月（創立：1935年5月）
資本金	39億5,697万5千円
連結従業員数	1,044名
事業内容	各種プラント・環境設備および各種単体機械等の 設計、製作、据付、販売

上場区分	東京証券取引所 プライム市場
証券コード	6331
業種区分	機械
発行可能 株式総数	48,000,000 株
発行済 株式数	23,741,850 株
単元株式数	100 株
大株主 (自己株除く)	① 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) ② 明治安田生命保険相互会社 ③ 三菱化工機取引先持株会 ④ 株式会社日本カストディ銀行(信託口) ⑤ 三菱化工機従業員持株会 ⑥ BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC) ⑦ 株式会社横浜銀行 ⑧ DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO ⑨ STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223 ⑩ 第一実業株式会社

事業系統図（2026年6月30日現在）

事業セグメント / 関連会社		主な事業内容	報告セグメント		
			GX事業	エンジニアリング事業	単体機械事業
三菱化工機株式会社	プラント / 水素・エネルギー / 環境	石油化学、半導体、電子材料、医薬、食品関連のプラント建設 / 水素製造装置、水素ステーション、都市ガス関連プラント / 各種水処理施設、廃棄物処理施設、バイオガスプラント	●	●	
	産業機械 / 船用機械	遠心分離機、ろ過機、攪拌機、除塵装置、船舶環境規制対応機器、真空高温加熱処理技術装置	●		●
子会社					
	三菱化工機アドバンス株式会社	下水処理場などの維持管理 / 各種プラント・環境装置の設計、製造、建設、アフターサービス、メンテナンス、維持管理、環境測定、人材派遣等	●	●	●
	MKK東北株式会社	強化プラスチック(FRP)製品の製造・販売 / 下水処理場などの維持管理	●	●	
	株式会社日誠工業	煙突の製作・監理、プラント配管工事	非連結子会社		
	MKK Asia Co., Ltd (タイ)	東南アジア地域におけるプラント設備の設計、機材調達、建設、メンテナンス、改造工事		●	
	MKK EUROPE B. V. (オランダ)	欧州における船舶機器装置・部品の販売並びに保守・補修等サービス業務			●
	MKKビジネスプラス株式会社	厚生サービス、三菱化工機グループ各社へのシェアードサービス	非連結子会社		
	株式会社MKKi	新規事業形態探索およびビジネスモデルデザイン、イノベーション人材の育成等	非連結子会社		
	斎藤遠心機工業株式会社	食品・飲料用途向けを中心とした陸上用大型遠心分離機の製作	非連結子会社		
	菱化機械技術(上海)有限公司(中国)	中国における船用機器装置、各種分離機および部品の販売、技術支援並びに保守、修理等サービス業務	非連結子会社		

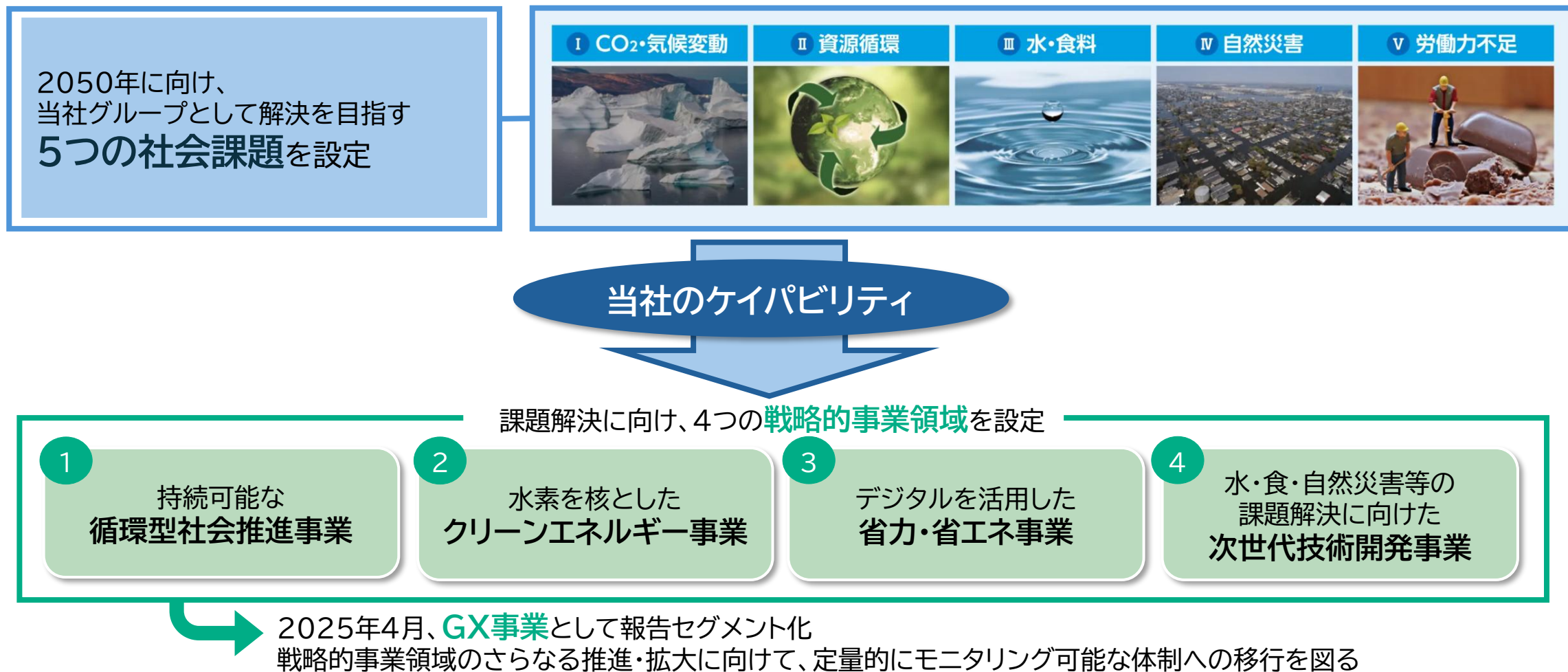
Appendix 3. 2050経営ビジョン・中期経営計画

MORE Sustainable, KEEP Innovating for a KINDHEARTED Society

MKK

三菱化工機グループ2050経営ビジョン

- 2050年をターゲットとした「三菱化工機グループ2050経営ビジョン」を2021年に策定
- 当社グループとして解決すべき5つの社会課題を設定し、それらに対応する4つの戦略的事業領域を展開



2026年5月 三菱化工機グループ2050経営ビジョン 内容の一部アップデートについて

- 連結売上高1,000億円への到達時期を2029年度へと6年前倒し、2035年度の売上高を1,200～1,400億円へ上方修正

1. アップデートの目的

- 当社の長期的な成長展望に関するメッセージを的確な内容に維持するため

2. アップデートのポイント

- 2050年を見据えた経営ビジョンのマイルストーンとした2035年度の事業規模等に関するアスピレーション計数(展望計数)を、前倒しならびに上方修正するもの

項目	2021年策定時	今回アップデート後
2029年度 連結業績	(設定なし)	売上高1,000億円 うちGX事業3割程度 営業利益率10%程度
2035年度 連結業績	売上高1,000億円 うち新規事業5～6割 営業利益率7～8%	売上高1,200～1,400億円 うちGX事業4～5割 営業利益率10%程度

前倒し

上方修正

- 上記計数面以外の変更は無し

(参考) アップデートの背景

- 2021年以降、当社事業環境の構造的変化、ならびに経営戦略の進展により、事業規模が当時想定以上のペースで伸長・底上げされる一方、ビジョン実現への道筋も、前倒しでより明確になってきたとの認識
- これを受けて、「創立100周年の2035年度に売上高1,000億円を目指す」としたアスピレーション計数の見直しが適切と判断

①当社を取り巻く事業環境の構造的変化の例

- ✓ 国内外の物価上昇等を背景に、EPC案件※1の単価が大きく上昇
- ✓ コロナ禍収束後、世界の海上輸送量の増加基調が回復
- ✓ 本邦の脱炭素社会構築に関し、関連法整備も進み当社ビジネス機会が増加

②当社経営戦略・事業戦略の主な進展

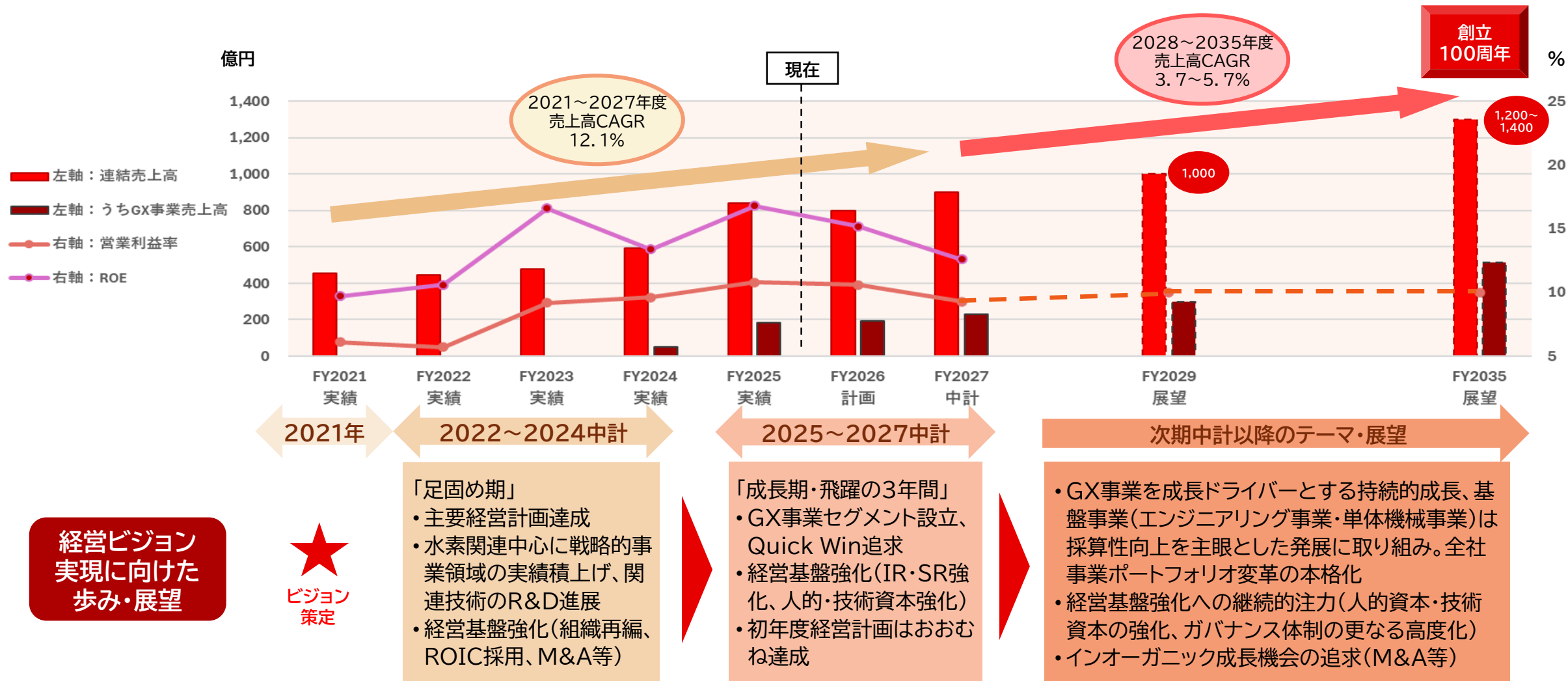
- ✓ 経営ビジョン実現の「足固め期」と位置付けた前中計では主要目標を達成
- ✓ 経営ビジョン実現の「成長期」と位置付けた今中計では、GX事業を立ち上げ成長事業を明確化。初年度目標をおおむね達成
- ✓ 単体機械事業において、当社油清浄機の世界シェアは30%台から50%程度へと伸長※2。また船舶環境規制対応機器ビジネスの本格寄与開始

※1 Engineering, Procurement & Construction (プラント建設案件等において、設計、資材調達、建設を一気通貫で手掛けるビジネス)

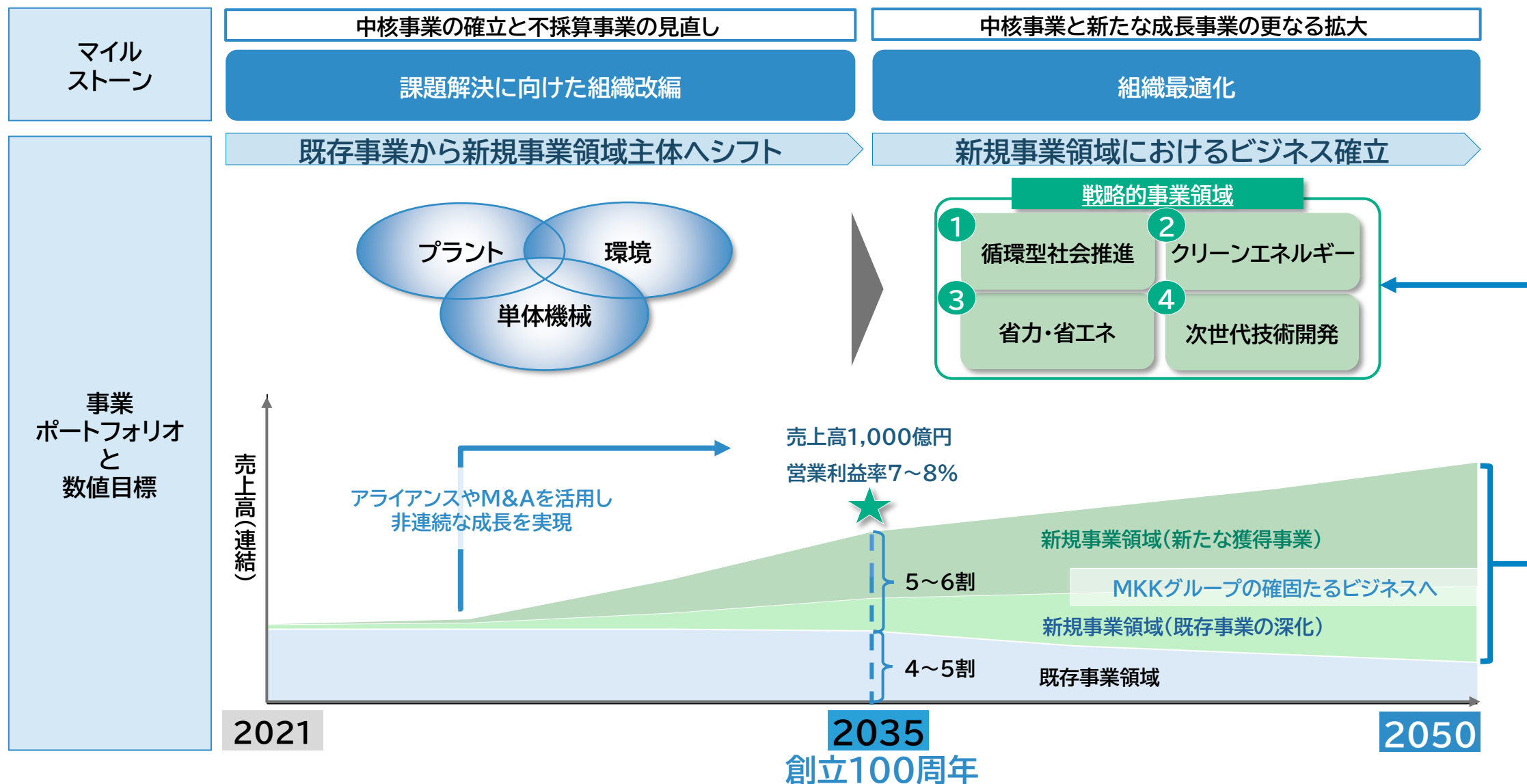
※2 当社調べ

経営ビジョン策定後の推進ステージと主要業績数値の推移

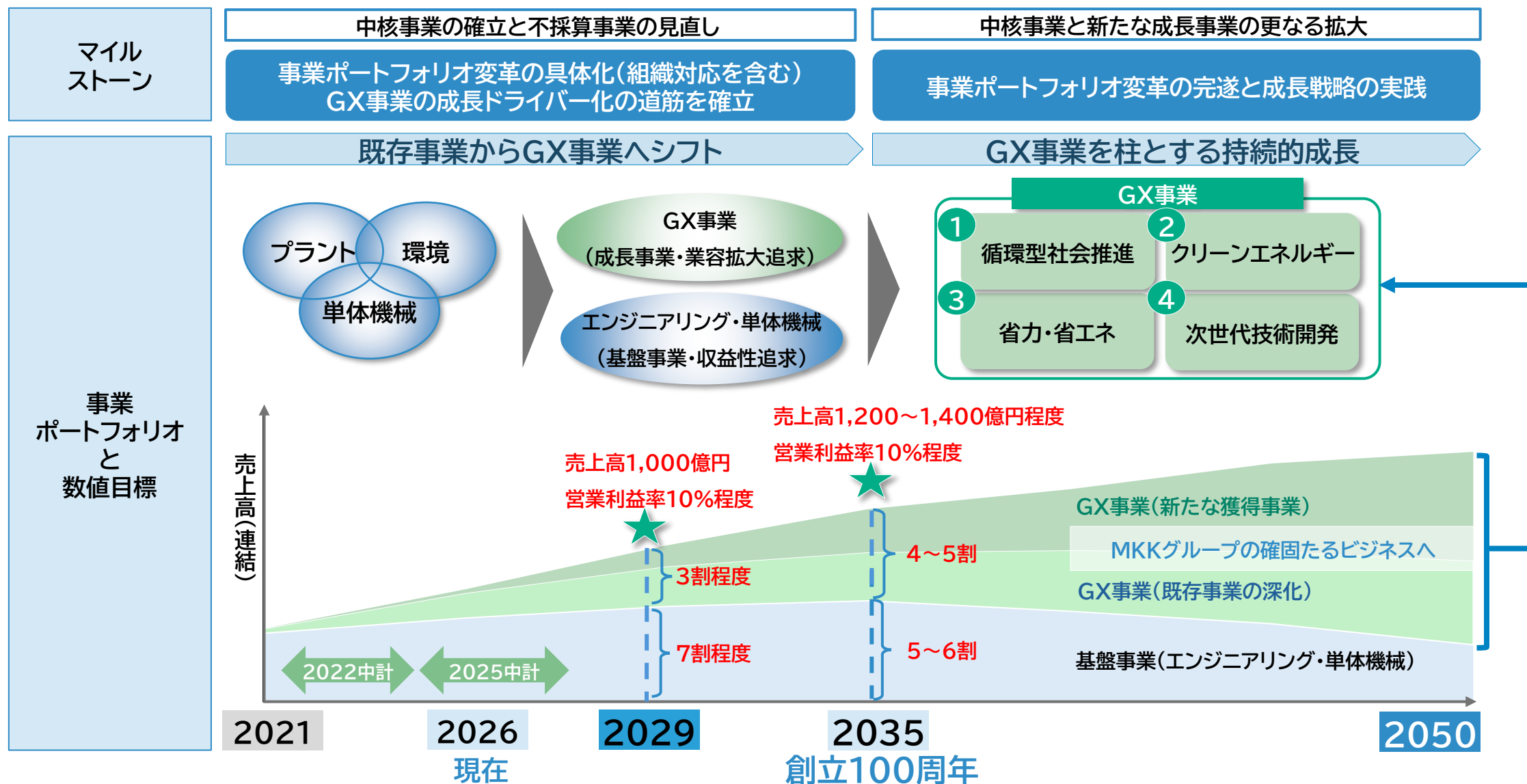
- 2021年の経営ビジョン策定から5年経過、実現に向けた前進に一定の手ごたえ
足元は今中計完遂に注力し、その後も、各マイルストーン・2050年を目指して持続的成長を続けていく



【2021年策定時】三菱化工機グループ2050経営ビジョン 事業ポートフォリオ ロードマップ



【2026年アップデート】三菱化工機グループ2050経営ビジョン 事業ポートフォリオ ロードマップ



中期経営計画 1) 現中計の位置づけ

● GX事業の成長と売上拡大を図る、経営ビジョンの実現に向けた「飛躍の3年間」と位置づける



中期経営計画 2) 骨子・主要施策

- 事業ポートフォリオの進化と、資本コスト・株価を意識した経営の確立を実現し、また、それを支える持続可能な経営基盤の強化を図る

目標

「循環型社会推進」「クリーンエネルギー」領域を主とするGX事業の製品・サービスを拡大し、顧客の脱炭素化のパートナーを担う企業

売上高900億円、営業利益率9%以上
PBR1倍以上、ROE12%以上
を達成

事業・財務
戦略

骨子①

事業ポートフォリオの進化

- GX事業の確立
- 基盤事業の競争力強化
- 事業拡大戦略の実践

骨子②

資本コスト・株価を意識した経営の確立

- 成長投資の実行
- 資本効率の向上
- 株主還元の強化 / 成長期待を高める情報発信

経営基盤
の強化

骨子③

人的資本・技術資本の強化

- 人的資本戦略の推進
- モノづくり戦略の実践

骨子④

経営ガバナンスの透明性向上

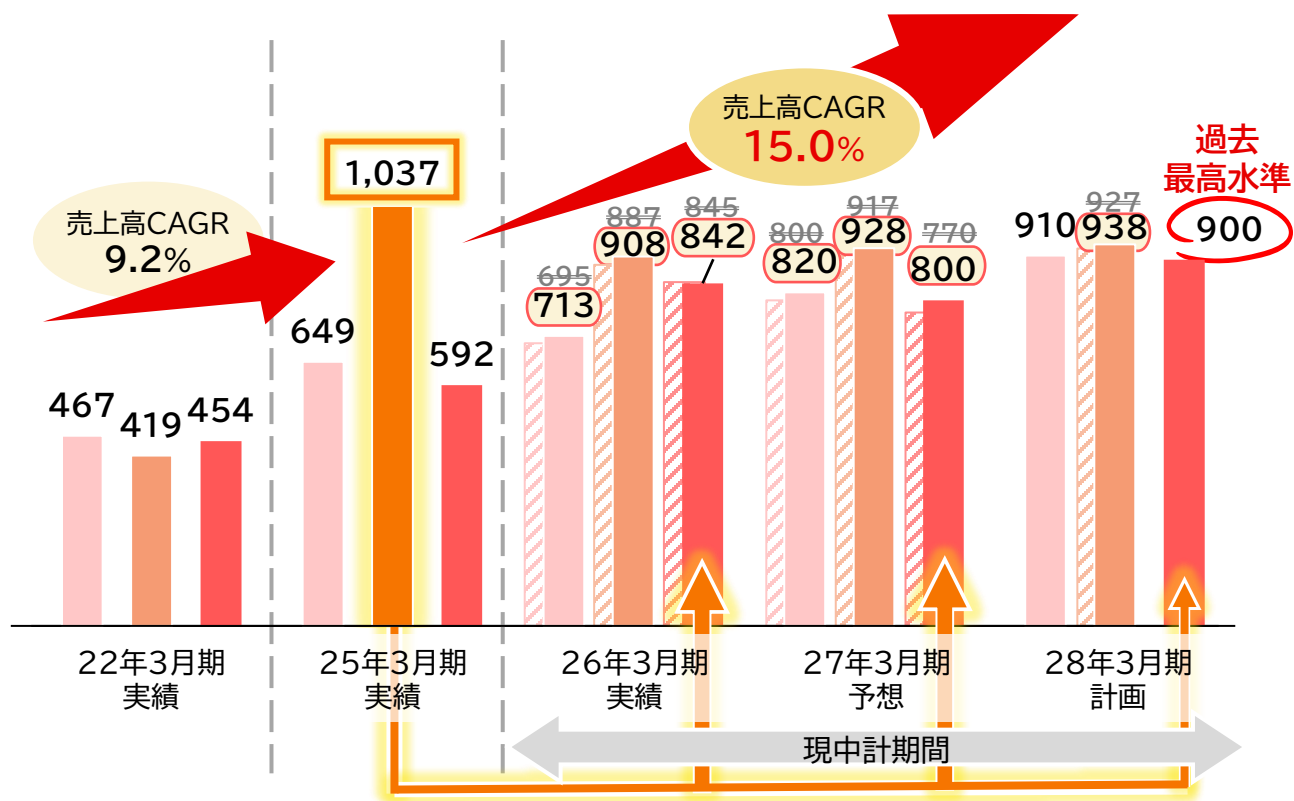
- 事業ポートフォリオ管理 / ROIC経営の浸透
- サステナビリティの推進

中期経営計画 1年目の進捗状況 1)数値計画

- 2026年3月期は、受注高・売上高・営業利益ともに概ね中計1年目の計画値を達成
- 2027年3月期も計画を上回る予想

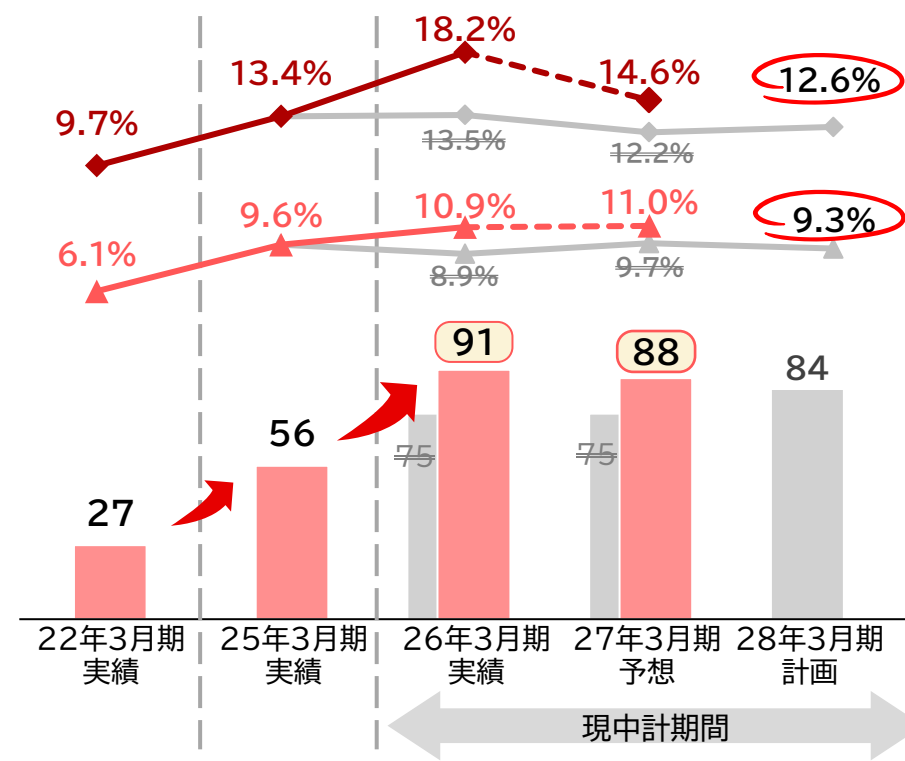
現中計期間での事業規模の目標値 (単位:億円)

受注高 受注残高 売上高 ※斜線棒グラフは中期経営計画



現中計期間での収益性指標の目標値 (単位:億円)

ROE 営業利益率 営業利益 ※灰色棒/灰色線グラフは中期経営計画

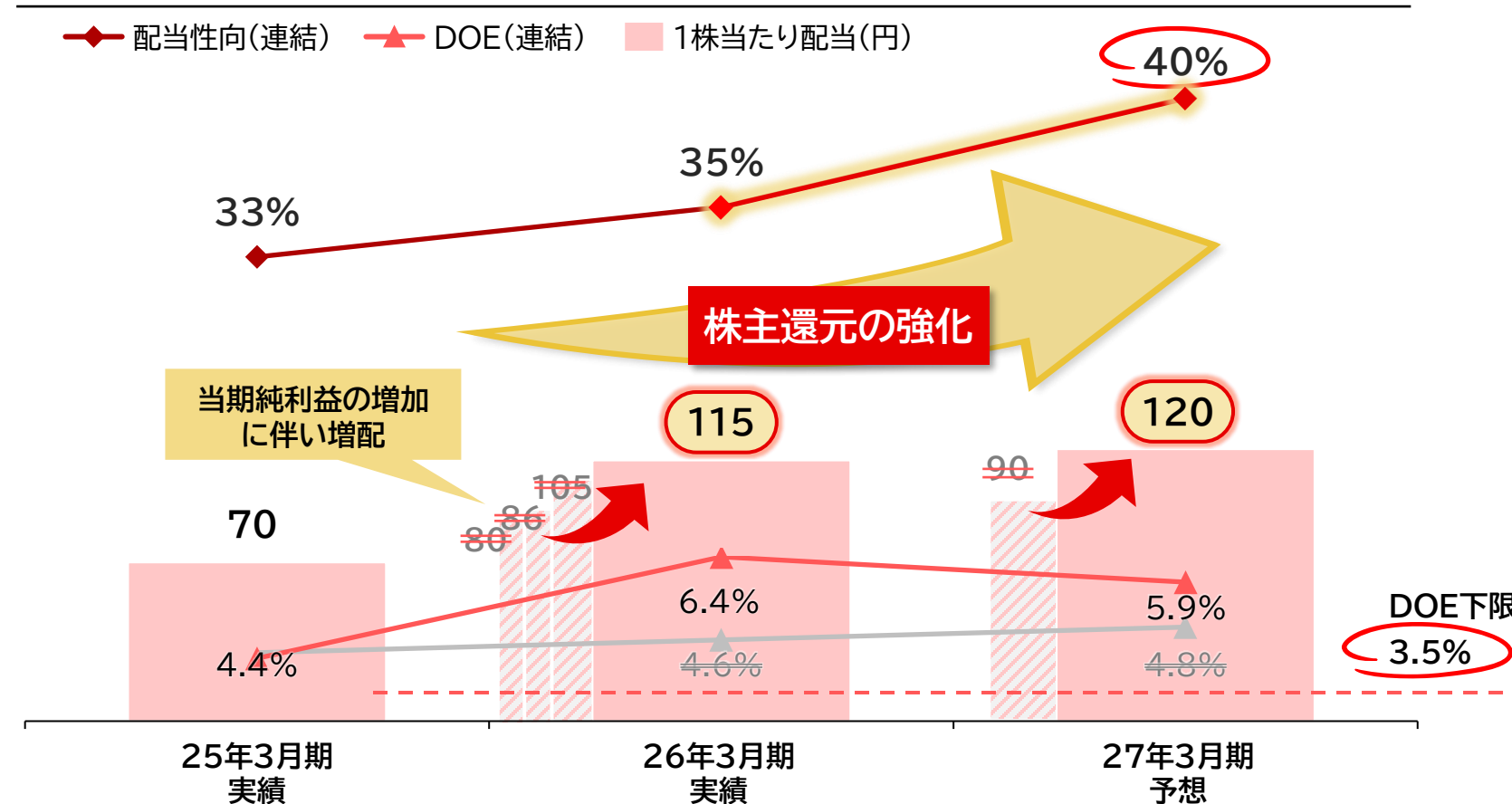


現中計期間では、前中計期間より売上成長のペースが加速、利益率もさらなる改善を狙う

中期経営計画 1年目の進捗状況 2)株主還元方針

- 2026年3月期は計画どおり配当性向35%、当期純利益の増加もあり、115円への増配
- 2027年3月期も計画どおり配当性向40%を遵守、120円へと増配を計画

株主還元の実績と現中計期間の計画



株主還元強化の方針

- 26年3月期は、当期純利益の増加に加えて、中期経営計画の株主還元方針に沿って増配

- 当期の配当性向は40%

35% → 40%
2026年3月期 → 2027年3月期

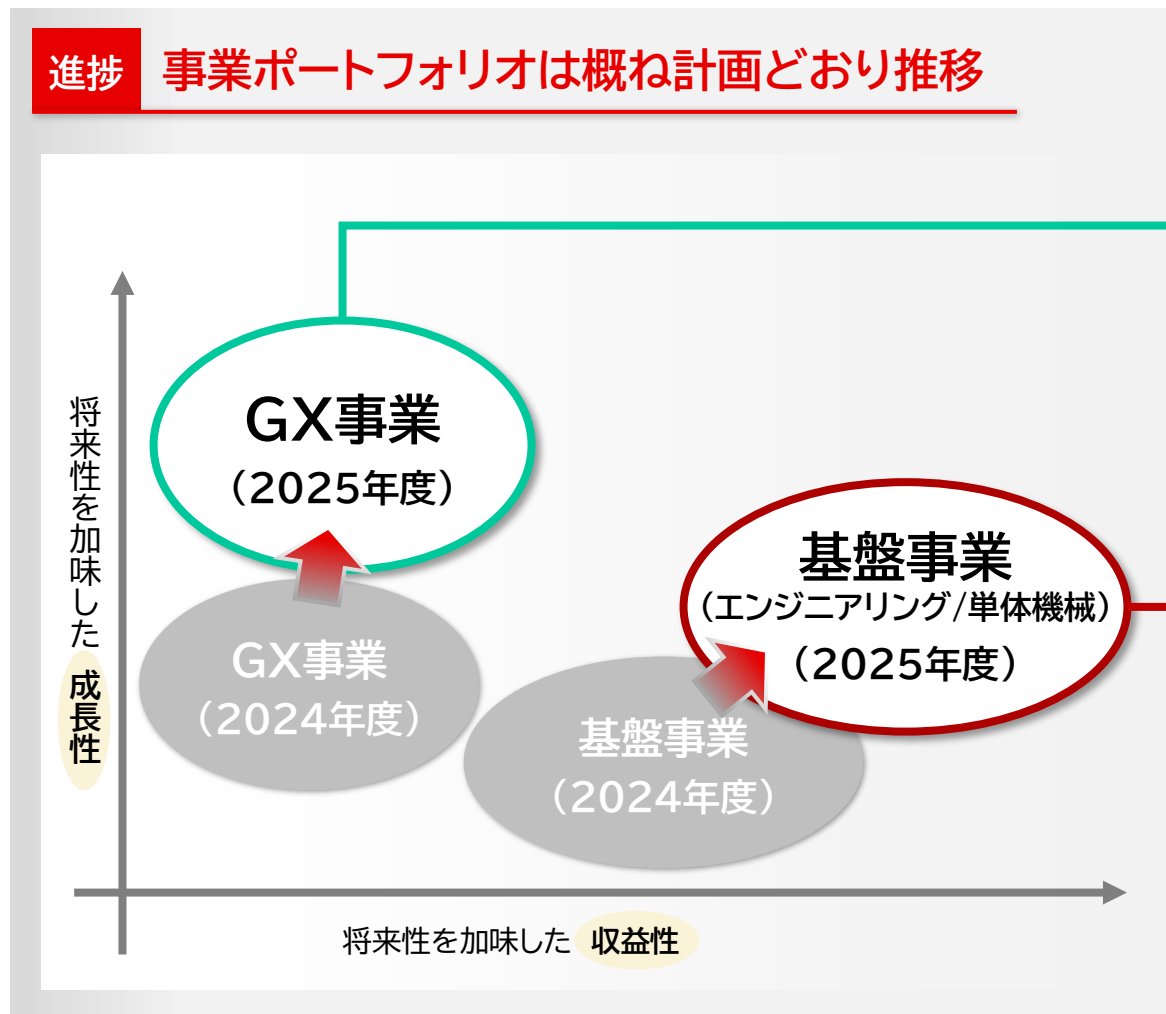
- 配当下限(DOE)により、安定配当を維持

(注) 当社は2025年4月1日付で普通株式1株を3株に株式分割しております。このため、2025年3月期以前の数値は株式分割を考慮して計算した値を表示しております。

中期経営計画 1年目の進捗状況 骨子①事業ポートフォリオの進化

- GX事業は成長性、基盤事業は収益性が向上、中計方針に沿った成果を実現

進捗 事業ポートフォリオは概ね計画どおり推移



GX事業: 売上成長

■ 受注高・売上高は前期比大幅に増加

GX事業の受注高・売上高推移

GX事業	25/3期	26/3期	増減率
受注高	51億円	199億円	+290.9%
売上高	49億円	183億円	+273.0%

基盤事業: 収益性向上

■ エンジニアリング事業、単体機械事業とも営業利益率が向上

エンジニアリング事業・単体機械事業の営業利益率推移

営業利益率	25/3期	26/3期	増減
エンジニアリング事業	4.4%	6.8%	+2.4pt
単体機械事業	23.1%	26.8%	+3.7pt

中期経営計画 1年目の進捗状況 骨子②資本コスト・株価を意識した経営の確立

- 中計に沿った事業戦略・経営戦略の着実な実行により、株価・PBRおよび株式流動性が大幅に向上
- 成長投資の着実な実行や情報発信強化も企業価値向上に寄与

進捗 本中計発表後、株価・PBR、株式流動性が大幅に向上 ◀ 中計の着実な実行が寄与

指標	25/03/31 (前中計期間末日)	25/05/30 (中計発表月末日)	25/09/30 (中計初年度半期末日)	26/03/31 (中計初年度通期末日)	26/06/30 (直近の四半期末月)
株価	1,355 円※ PBR:0.8倍	1,937 円	2,681 円	2,914 円 PBR: 1.5倍	3,650 円 企業価値向上策を継続
出来高※1日平均	25/3期平均: 141 千株/日※	4/1 株式分割	26/3期平均: 320 千株/日		27/3期(4/1-6/30)平均: 246 千株/日

※当社は、2025年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。記載の株価および出来高は、その株式分割を織り込んだ数値です。

成長投資の実行

- R&DやM&Aなど、事業拡大につながる投資を積極的に実行、順調に進捗

現中計の
「成長投資」

研究開発

1年目実績: 8.1億円



M&A・アライアンス、出資

1年目実績: 3件

2025年度
実績

- 事業性や事業化時期(Quick-Win)等を検討し積極的に投資
例) 製造水素のブルー水素化(CO2回収)

- シナジーが見込める3件へ投資
1) MKK東北が日誠工業の株式を取得
2) Japan Hydrogen Fund, L.P.へ出資
3) 日本水素エネルギーへ出資

成長期待を高める情報発信

- IR/SR活動を強化
 - ・ IR面談の実施件数が倍増(前期比+80%)
 - ・ 日経IRフェアや投資家向けメディアに初展開、個人投資家向け施策も強化
 - ・ SR: 大株主エンゲージメント面談を初めて実施
- 広報活動を強化
 - ・ テレビ番組などメディアへの露出を開始
 - ・ MKK PROJECT による戦略的広報活動の推進

その他
本骨子の
進捗

中期経営計画 1年目の進捗状況 骨子③人的資本・技術資本の強化

- 人的資本の強化に向け、採用・育成や従業員エンゲージメント強化施策を展開、人員計画が着実に進捗
- 技術資本の強化施策として、川崎製作所の再編等、モノづくり機能の最大化を目指す施策が進捗

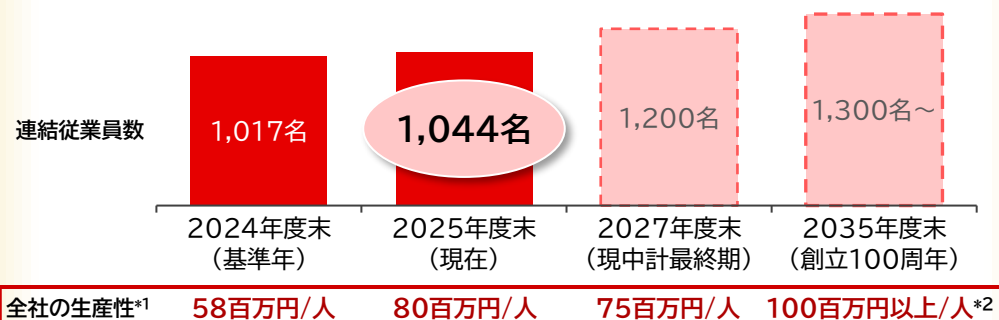
人的資本戦略

■ 人材の育成・獲得、エンゲージメント向上に係る施策を強化

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| i) 新卒・中途採用の強化 | → 採用者数が増加 |
| ii) 教育研修のプログラムやインフラを強化 | → 研修実施時間が増加 |
| iii) 働き方改革のさらなる推進 | → 多様性確保、仕事と家庭の両立に寄与 |
| iv) 社長によるタウンホールミーティングの継続 | → エンゲージメントの向上に寄与 |
| v) 充実した従業員持株会制度 | |

■ 人員計画は着実に進捗

中期経営計画における人員計画



*1 全社の生産性は、一人当たり売上高として計算

*2 2026年5月の経営ビジョンアップデート後の展望計数にて計算

モノづくり戦略

■ 本社・川崎製作所の再編に注力

- ・ 製品開発・生産活動のマザー工場とすべく、必要十分な設備・システムの検討を継続、モノづくり機能の最大化に資する施策が進展



2026年4月の状況:鉄筋の組立工程

■ 工場の有機的連携の推進

- ・ 新たに生産戦略企画室を立ち上げ、工場間で柔軟に生産活動を連携できる体制構築に向けた取り組みを推進

DX戦略

- 業務の高度化・効率化に資するAIの導入を複数件実施
…従業員が高付加価値な業務に注力できる環境整備を推進、営業利益率のさらなる増大に資す
- 経済産業省よりDX認定事業者認定
- 生産活動のDX化(工場DX)に向け、DXパートナーを選定中



中期経営計画 1年目の進捗状況 骨子④経営ガバナンスの透明性向上

- マテリアリティに係る取り組みは概ね順調に進捗
- 労働安全衛生に関して、再発を防止する仕組みづくりに取り組み中

サステナビリティ推進		2025年度 進捗状況		
マテリアリティ	KPI	○/×	実績	主な取り組み状況
1 4つの戦略的事業領域に関連する社会価値の創造	a) GX事業の3年目売上高: 230億円以上 b) M&A/出資の実行: 1件以上	a) ○ b) ○	183億円 1件	● 休業災害が1件発生 → 再発防止の仕組みづくりに取り組み中
2 顧客との信頼関係強化(品質・安全)	a) 4日以上休業災害件数 ※1: 0件 b) 品質(損失)コストの対売上高比率 ※2: 前中計期間比 低減	a) × b) ○	1件 低減を実現	● 社長が全従業員と対話する「タウンホールミーティング」を開催 → 従業員の声を経営へ取り込むことで、エンゲージメント推進力向上に資する
3 多様性を重視した人材開発・活躍推進	a) エンゲージメント調査の平均点 ※3: 3ポイント以上向上 b) 女性従業員比率 ※3: 20%以上	a) ○ b) ○	+2pt(66pt) 15.5%	● サステナブル調達の推進のため、主要サプライヤーへのCSRアンケートによりESG課題を特定し、フォローアップを実施 → 取り組み体制が確立、2026年度、第2回実施が進行中
4 事業活動における環境負荷の低減	a) Scope1,2排出量 ※1: 2030年目標(1,417tCO₂)以下水準の維持 b) Scope3排出量: 算定・開示	a) ○ b) ○	959tCO₂(推計) 5カテゴリ開示 3カテゴリ算定中	
5 モノづくり戦略の確立と推進	a) 工場DX: 川崎製作所をはじめとした グループ内各工場への実装 b) 資材調達リスク管理: サプライチェーンマネジメントの実施	a) ○ b) ○	パートナー選定中 第1回を実施	
6 コーポレートガバナンスの強化	ガバナンス機能の発揮により、KPI実現をフォローアップ	月次でKPIをモニタリング		

※1 本中計期間内すべての期間における目標 ※2 前中計期間3年間平均に対する、本中計期間3年間平均の目標 ※3 前中計期間最終年度(2024年度)に対する、本中計期間最終年度(2027年度)の目標

Appendix 4. 当社の強み・ビジネスモデル

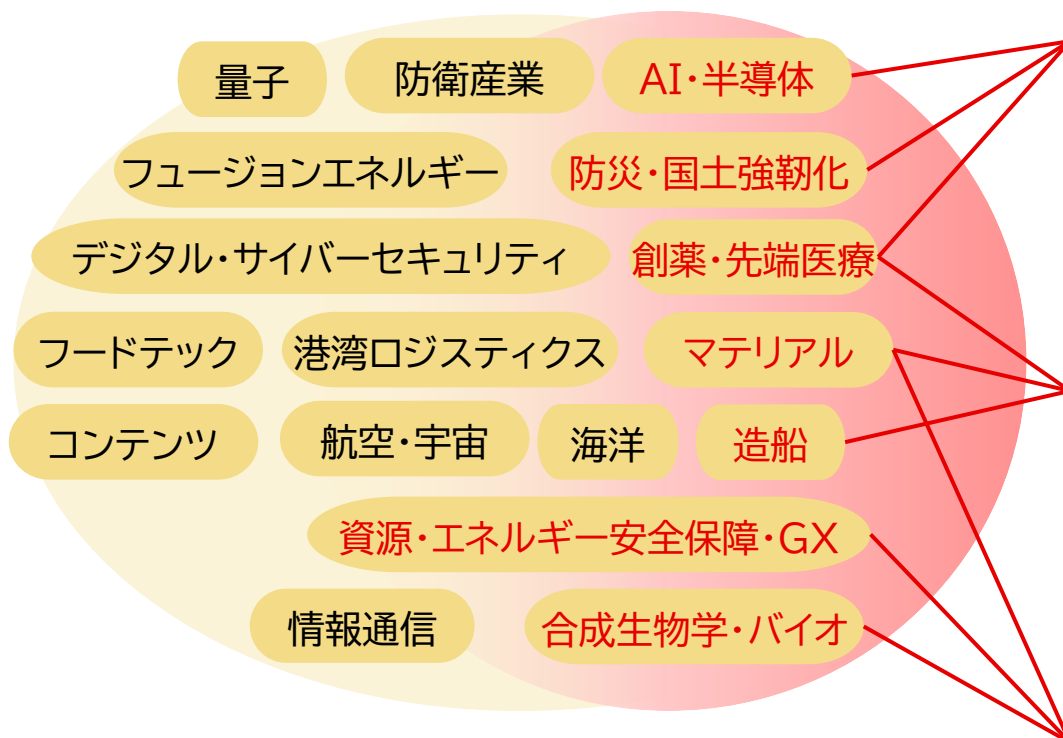
MORE Sustainable, KEEP Innovating for a KINDHEARTED Society



日本政府の政策方針と当社の事業領域

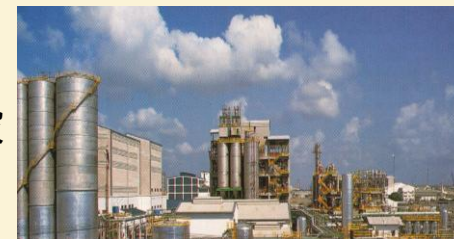
- 当社の幅広い事業領域が、日本政府が定めた17の戦略分野のうち様々な分野に合致

戦略17分野



エンジニアリング事業

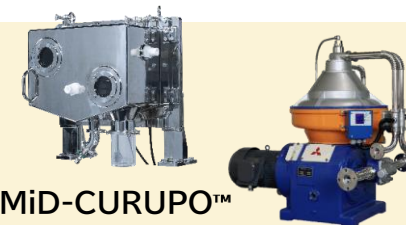
- 半導体素材(電子材料)プラント建設
- 下水道プラント建設
- バイオ医薬品プラント建設



プラント建設事例

単体機械事業

- 医薬原薬用途の分離・ろ過機
- 循環資源の分離・ろ過機
- 船舶用油清浄機・船舶環境規制対応機器



MiD-CURUPO™

三菱セルフジェクター
(SJシリーズ)

GX事業

- SAF・合成燃料製造に使用する水素製造設備
- 藻類利活用のための培養・濃縮・抽出技術



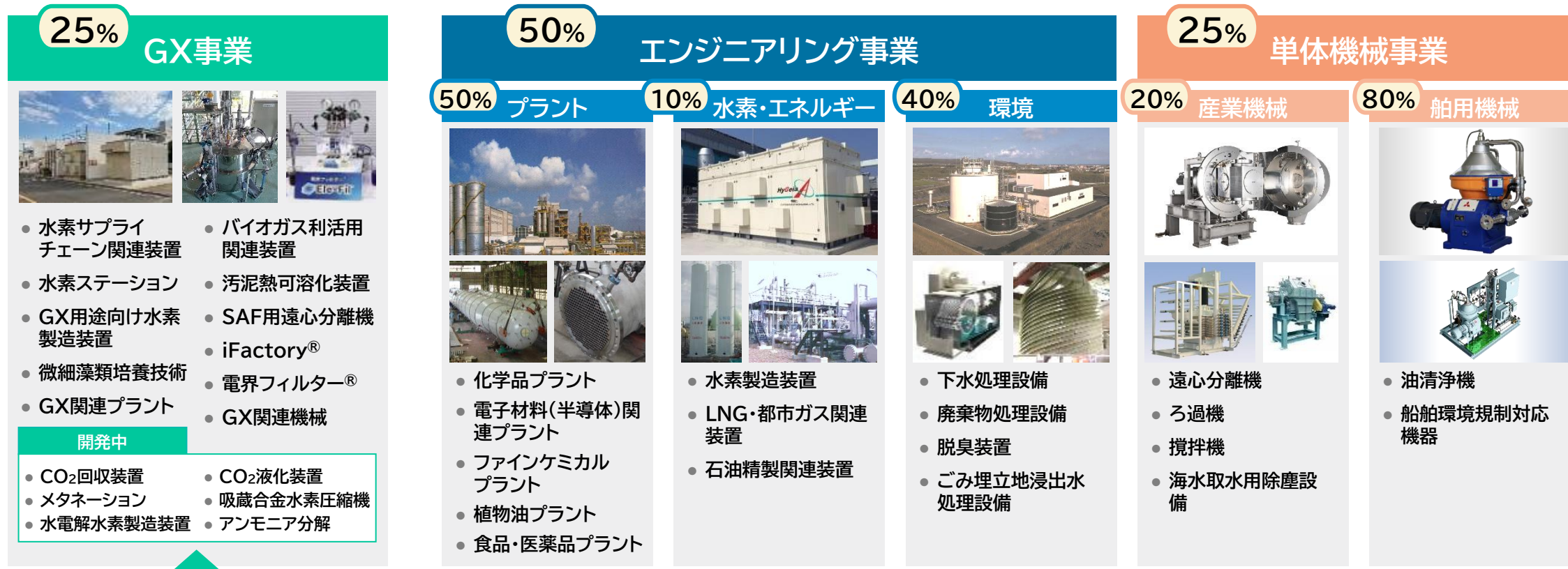
大型水素製造設備



微細藻類培養装置
(ガラス管閉鎖式
フォトバイオリアクター)

事業内容

- ケミカル・電子材料関連プラント、水素・エネルギープラント、環境設備を設計・調達・建設する「エンジニアリング事業」
- コア技術である分離・ろ過技術を用いた遠心分離機、ろ過機など各種単体機械を製作する「単体機械事業」
- 経営ビジョンに掲げる「CO₂・気候変動」「資源循環」「水・食料」「労働力不足」「自然災害」の社会課題解決に貢献する「GX事業」



循環型社会推進

クリーンエネルギー

省力・省エネ

次世代技術開発

新規技術開発、既存技術・製品の改良、用途の開発により、経営ビジョンに掲げる社会課題解決に貢献する戦略的事業領域に適合

GX事業の製品・サービス

- 直近で成長している水素需要へは、水素製造装置などの主力製品を投入して事業を拡大させる
- 今後の成長が見込まれる低炭素水素(ブルー・グリーン水素)やCO₂回収などカーボンリサイクルの領域へは、現中計期間中に市場投入するようにR&Dを推進していく

1 持続可能な循環型社会推進事業

Quick-Win



バイオガスからの水素製造

(バイオガス利活用)

汚泥熱可溶化装置

(バイオガス利活用)

メタネーション

(カーボンリサイクル・水素利活用)

開発中

CO₂液化装置

(カーボンリサイクル)

開発中

3 デジタルを活用した省力・省エネ事業



2 水素を核としたクリーンエネルギー事業

Quick-Win



藻類培養

水素吸蔵合金配送システム

開発中

吸蔵合金水素圧縮機

(水素吸蔵合金)

開発中

アンモニア分解

(水素利活用)

開発中

水電解水素製造装置

(グリーン水素)

開発中

4 水・食・自然災害等の課題解決に向けた次世代技術開発事業



ビジネスモデル

エンジニアリング
(EPC)

フィジビリティ・スタディ

提案

引合

見積

受注

設計 Engineering

機器製作・資材調達 Procurement

建設 Construction

試運転・引き渡し

運用・保守

プロジェクト型

顧客の要求性能に準じて
設計し、建設平均
リードタイム
2～3年三菱化工機の
製品・サービス

大型水素製造設備

連続回転ろ過機
CURUPO®(クルポ)

納入先(顧客)



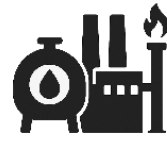
化学会社

半導体関連
メーカー

食品会社



下水処理場



エネルギー会社



造船所

など

モノづくり
(Manufacturing)

製品開発

提案

引合

見積

受注

設計

部材調達

加工・組立て・試運転

検査・出荷・納入

保守

平均
リードタイム
半年～2年

受注生産型

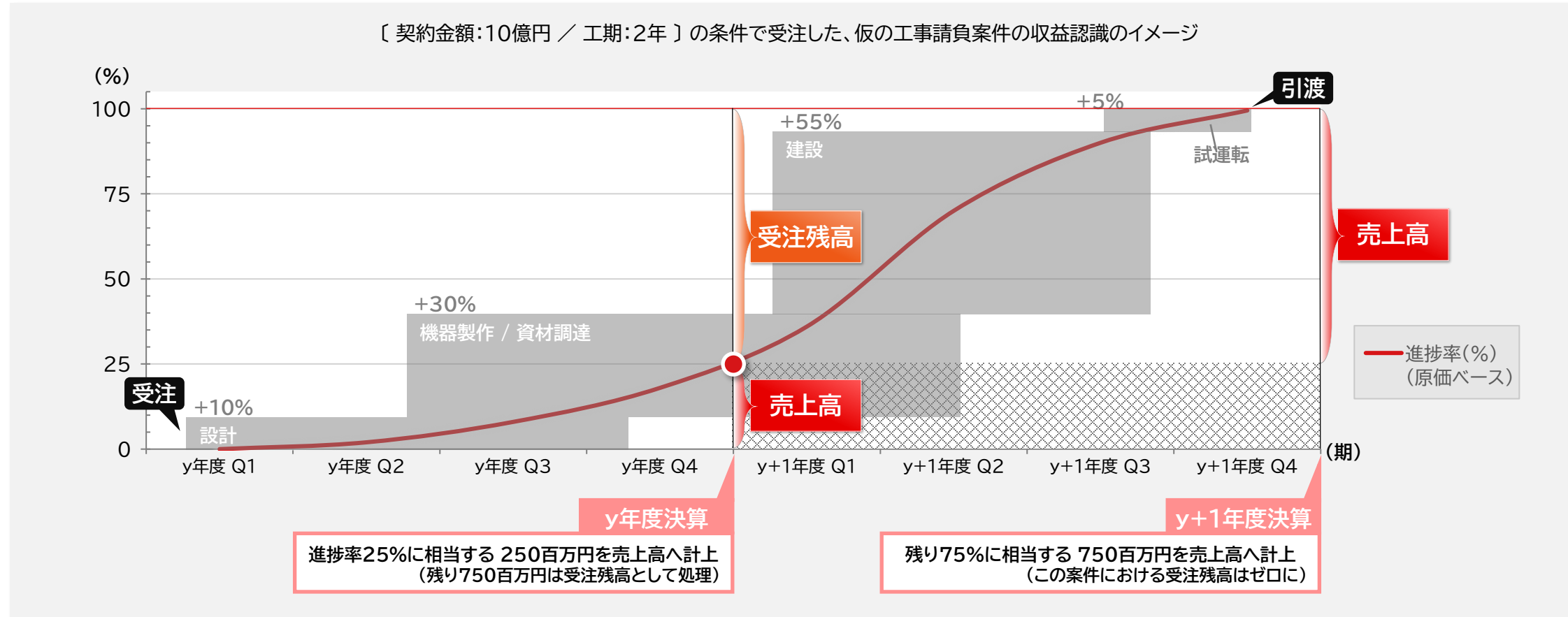
見込み生産型

受注後に
部品製作から
開始必要部品を
見込み生産し
て在庫

収益および費用の計上基準について(工事進行基準)

- エンジニアリングに係る工事契約の多くは、進捗度に応じて収益を認識(下図のイメージ)
- 各種単体機械の製品販売の多くは、製品の引渡時点で収益を認識

■ 工事案件における収益認識のイメージ(工事進行基準)



IRに関するお問い合わせ先

IRに関するお問い合わせ先

三菱化工機株式会社 企画部

.....
お問い合わせ: ir_team@kakoki.co.jp

本資料に関する注意事項

本資料に掲載の企業、団体等の名称については、敬称を略して掲載しております。

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。
本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。
また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成していますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。



MORE Sustainable, KEEP Innovating for a KINDHEARTED Society

MKK